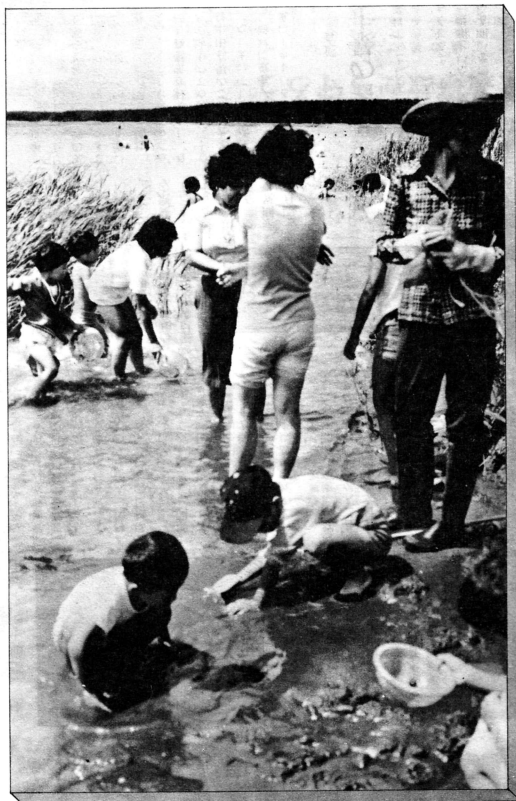


広報



# しゅうら



## 家族連れでにぎわう シジミ採りに水遊び

十三湖は、いまシジミ取りに訪れる観光客で大にぎわい。遠浅の湖には、手に手にポリバケツやビニール袋を持った親子連れが繰り出し、ヒザまで水につかりながら大奮戦。照りつける日差しの中で、「あったあった」と歓声をあげています。

昭和55年 6・7月号

交通事故防止

# 非常事態宣言中

## 許すな酒酔い暴走

### 村民すべてが決起を

交通事故による死亡者が、このところ県内で急増しています。昨年年間トータルで死亡事故が前の年を下回り、減少率では全国第二位という記録を達成しました。

今年も、三月までは好調に推移してはいたのですが、四月からは増加の傾向に転じ、特に五月は交通事故による死者が十六人ととなり、前年同期と比較して六人(六十%)の増、六月は十七人で前年の同じ月に比べ五人(四一・七%)の増という異常なペースで増加しています。

きちんとルールさえ守ってればほとんどの交通事故は防げます。道路を整備し、交通安全施設の充実も大事なのですが、それ以上に運転する人たちのモラルを向上しなければなりません。


交通安全防止非常事態宣言、これを機会に、どうすれば事故を減らせるか、家族や職場で話し合いを深めてみたいものです。そして、交通事故防止に、あなたも立ちあがってください。

このため、六月十二日にはついし町知事名による交通安全防止非常事態宣言が出され、七月十一日までその運動が展開されています。

死亡事故を起こした運転者の六十五割は、二十九歳以下の若者で、事故のほとんどは酒酔い、暴走によるもの。ルールを無視するのは、ほんの一握りの若者かもしれませんが、その一握りの無謀なドライバーたちにより死亡事故はひき起こされているのです。

交通事故防止非常事態宣言、これを機会に、どうすれば事故を減らせるか、家族や職場で話し合いを深めてみたいものです。そして、交通事故防止に、あなたも立ちあがってください。

交通事故防止  
宣言中




## 夏休み中の子どもを 交通事故から守ろう

- 夏の交通安全運動、七月二十一日から八月十五日間実施されます。
- ① 夏休み中の子どもを交通事故防止、歩行者及び自転車利用者から八月四日までの十五日間実施されます。
  - ② 無謀運転による交通事故防止。
  - ③ 飲酒・暴走及び無免許等止。
  - ④ ヘルメット、シートベルト着用の推進。
  - ⑤ 暴走族の追放。
- 交通安全安全対策協議会では、交通安全「0」をめざして村民みんなに参加してもらいたいと考えています。
- 子どもたちは、七月二十一日から夏休みに入っています。交通事故にあわないように十分注意してやりたいものです。
- また、これから暑さに向かいますので、歩行者も基本的な交通安全ルールの守るようしてください。



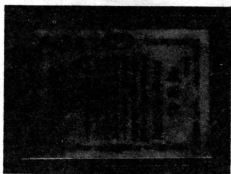
# 死亡事故ゼロ 785日達成!

## ストップ・ザ・交通事故

### サアノ次は千日達成だ

市浦村では、交通事故防止を図るため、村民総ぐるみで運動を展開していますが、今年に入って市浦管内で発生した交通事故数は、七月二十二日現在で四件、傷者七名となっており、昨年の同月に比べ五件(五十六)三人(三十三)の減少を示し、減少率では、金本警察署管内第一位の記録です。

また、交通による死亡事故ゼロの記録も、七月二十二日現在で七百八十五日を達成し、去る六月二日には、五



月二十八日で事故ゼロ(七百三十日)を達成したことに、式を挙げて表彰式が行われ、暴走は白川村長が出席し、北野署警本部長から来賓ある表彰状が手渡されています。

市浦管内で、最後に交通事故死亡事故があったのは、昭和五十三年五月十九日午前一時ごろ、県道錦ヶ沢、畑田線の五月女帯地内で、小泊村の若者二人が暴走して道路わきの立木に衝突し、即死したものです。

この死亡事故以来、交通安全協議会市浦支部はじめ、各関係機関、団体が総力をあげて事故防止に立ちあがり、それぞれの立場で積極的な運動を展開してきました。その記録は村民の願いと決意、そして村民一人ひとりの努力があって達成されたものであり、これからも、村民が一元となって記録更新にむけて努力し、交通事故のない明るい村づくりにすすめるたいものです。



今年、春の異動で金本警察署から相内駐在所へ参りました。函館出身の道産子で、下北育ちです。

昭和二十七年に警察官を拝命していますが、南部地方の勤務が多

く、津軽へ来て五年になり子どもたちにとっては楽しいです。

### 事故防止に頑張っています



三駐在所に赴任しました。五所川原警察署時代は、警察の

四月の

定期異動  
つて、事件  
日夜活動し  
川原警察  
署から十  
米とらんご  
で十三は初  
め、五所川  
原警察署に  
赴任する際  
、悪い面を  
いうと聞か  
されてきた  
が、予想以  
上風力の強  
いにはおど  
ろきません  
。事件は全  
くなく、交  
通

### 事故防止に愛の一声を

佐賀 正敏

(金本警察署相内駐在所)

駐在所勤務は初めてというところで、チョッピリ不安もあつたが本署勤務時代の知人も多く、それに村民のよいかん人情に支えられ生きがいのある明るい駐在所生活を過しています。

犯罪や事故のない明るい村づくりには頑張りたいとお願ひしております、よろしくお願ひします。

子どもたちにとっては楽しいです。

### 若者の暴走に歯止め

奈良岡 明博

(金本警察署十三駐在所)

顔とも言えるパトカーに乗って、事件に対処し、日夜活動しています。米とらんごの黒石市出身で十三は初めての土地であり、しかも駐在所勤務初めての経験です。

赴任する際、良い面悪い面をいうと聞かされてきたが、予想以上に風力の強いにはおどろきません。事件は全くなく、交通

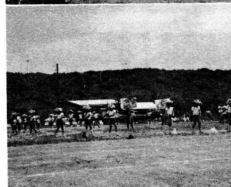
事故も三件と少なく、比較的平穏なところですが、これから観光客の来込みが多くなることから、気をひきしめなければならぬと思っています。

特に、若者の暴走による事故が増えていることから、若者の暴走、飲酒運転に歯止めをかけ、村民総ぐるみで交通事故防止につとめよう。

# 晴天に恵まれ 運動会にぎやか



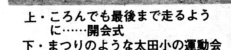
太田小



相小



上・鼓笛隊も練習の成果上々でした…  
下・相小の太刀振りもかろやかに  
(虫おくり)



上・ころんでも最後まで走るように…開会式  
下・まっぴりのような太田小の運動会



十三小



上・堂々入場行進する十三小健児  
下・ボクもワタシも一生けんめい走りました。



脇元小

上・ピカピカの一年生にまじって保育所の子どもたちも参加  
下・ヒゲスタイルで婦人会もハッスル

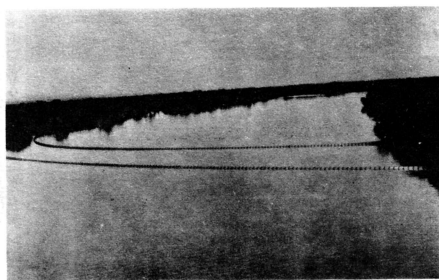


ソレ、ケッパレ!  
母親も飛び出し熱が入る

夏の到来を思わせるような好天に恵まれた村内各小学校の運動会は、六月七、八日一斉に行われ、前日から精いっぱいのごちそうをつくり、グラウンドの周囲にはそれぞれが

ツイを打って陣取りわが子の健闘に応援を送っていました。運動会は、その学区にとつて年中行事の一つであり、学区あげてのものとなります。

この日は、田植えも終わり農作業も一段落、漁民も出漁を休んで応援し、徒競争や障害物競争、つな引きなど、どの地区でも熱戦がくり広げられていました。



十三湖への重油流出をくいとめるため、岩木川にオイルフェンスをはったがその効果はなかった…。

# 危険物の 違法貯蔵はやめよう

黒石市の化学工場に起因する重油流出事故の発生については、テレビ、新聞等でも報道されましたが、去る七月九日には、浪岡町のブロッカ工場に起因する廃油の流出事故

が発生しました。この工場では、昭和四十八年から消防法に違反して、無許可で重油貯蔵用のタンク（ドラム）を設置していたほか、ポイラー室における危険物の

使用についても町条例による届出がなされておらず、これまで不法に危険物が取り扱われていたことが判明されています。最近、相次いでこのような油の流出事故が発生していることは、極めて憂慮すべきことであり、工場、作業場等における防災意識の向上と諸対策の充実が急がれるとともに、その取締りに当たる消防機関の指導も強く望まれています。

消防機関（消防本部・消防署・分署）においては、春秋の大災害予防運動の前後に、毎年危険物施設の立ち入り検査を実施していますが、今後は、危険物（灯油、軽油、重油等）を貯蔵又は取り扱っていると思われる工場、作業場への立ち入り検査についてもあわせて実施しますので、危険物の違法貯蔵、不法廃棄、流出等について発見した際は、消防本部、消防署、分署へ通報がまいります。

## よりよい 環境を求めて



快適な生活環境から  
一人一人の公衆道徳から

吸いながら灰皿へ…  
これも公衆道徳

## 斎藤教育長死去

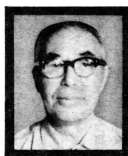


七月十日午前零時、急性肺炎のため五所川原市の西北中央病院で死去しました。七十歳。

斎藤さんは、大正十四年、青森師範卒業後、西部木造町の林尋常高等小学校訓導を振

り出しに教員生活に入り、昭和十七年には市浦村臨元国民学校長。さらに臨元中学校長、相内中学校長を歴任し、昭和四十一年、小泊中学校長を最後に退職。その後四十四年には村教育委員に選任され、すぐ同委員長に就任。四十七年十月から教育長を務めていました。

## 前教育委員長の 鳴海金次郎氏も



七月十七日午後十一時三十分、心筋コワクのため公立金木病院で死去しました。七十三歳。

鳴海さんは、小泊村下前尋常小学校を振り出しに教員生活に入り、昭和二十六年には旧武田村若宮小学校校長、さ

らに下前小学校長、臨元中学校長を歴任し、同四十二年、中里中学校長を最後に退職しました。

その後、昭和五十一年、市浦村教育委員に選任され、五十二年五月から五十五年二月まで教育委員長を務めました。



# 故三和精一氏顕彰碑

## 孫たちの手で除幕

本県二区選出(市浦村相内出身)の衆議院議員として津軽の地域開発に多大の功績を残した故三和精一氏をしのぶ顕彰碑が旧十三橋のほとり建立された。

今年はじめ、ゆかりの人たちが集まり「三和精一先生顕彰碑建立実行委員会」(増田恒一会長)を設立し、幅広く募金活動を行っていたもので、六月八日午前十一時から遺族をはじめ、津軽地方の市町村長ら関係者約二百人が出席して現地で除幕式が行われました。

故三和精一氏は、昭和二十七年、衆議院議員選挙に初当選、昭和三十八年まで通算四期活躍し、その間建設政務次官も務め、五所川原市の乾橋架け替え工事、目屋ダム建設、三湖干拓、旧十三橋など多くの事業を手がけました。昭和三十三年、六十歳で世を去りました。

設立した十三橋が永久橋の完成とともに役割を終え、湖上から姿を消すことになったため、その由来を長く後世に伝える意味も込められて建立されたものです。

除幕式では、神事に続いて斎藤要子ちゃん(七歳)ら五人の孫が除幕すると、岩木山ろく自然石を利用した立派な顕彰碑が姿をみせ、出席者から大きな拍手がわきました。次いで出席者が次々と玉ぐしを奉養し、碑の完成を祝いました。このあと、会場を基幹集落センターに移して祝賀会が行われたが、増田恒一会長が「先生が没したあとに津軽は、全く寂しいものになりました。今さらながら先生の

偉大さがしのばれます」とあいさつ。次いで山内副知事はじめ秋田県議会議長ら来賓が「先生の郷土発表に尽くされた功績は試に大きいものがありません」とその人柄やエピソードを語り、故人をしのびました。

集まったゆかりの人たちも「十三橋を建設することが政治を志すきっかけとなった」という先生の碑は、津軽に三和精一ありき、ここに十三橋ありき」と後世に伝えるとともに、碑の建立が市浦村発展へのシンボルにしなければならぬ」と語りあっていました。



除幕式には津軽地方の市町村長ら関係者約200人が出席しました。

